きりすとこどもえん　９月園だより

２０１６年度　年主題〈平和をともに〉

1･2歳児９月主題「のびのびと！」

月のねがい

◎保育者を通してまわりの人や友だちのために祈る経験をする
◎空の雲や風を感じ、移りゆく季節を感じる
◎手伝ってもらいながら、簡単な身のまわりのことをしようとする
◎自分から友だちや保育者に思いを伝え、遊びにかかわろうとする

3･4･5歳児９月主題　「躍動」

月のねがい

◎平和を考え、願い、共に祈り、平和に過ごす
◎一日の生活リズムを取り戻す
◎夏の経験を通して、遊びが広がる
◎友だちと身体を動かす遊びを楽しむ

今月の聖句　「互いに愛し合いましょう」　ヨハネ第一の手紙４章７節

この手紙をしたためたヨハネはイエス･キリストの１２人の弟子のひとりで、漁師を生業としていましが、キリストに臣従し、弟子の一人となりました。若い時は、血気盛んで、気性の荒い人でした。晩年、彼は地中海のパトモス島で過ごしますが、この時は別名「愛の使徒」と呼ばれるほどに温厚柔和な人柄に変えられました。今月は、彼が教える人生で最も大事な「愛」について考えましょう。

「愛」はよい言葉ですが、その内容にまではなかなか到達できないことばです。一般には男女の愛･博愛などに理解されがちですが、実際はもっと深く広いものです。概略説明しますと、①agape アガペー愛② Phireo フィレオー愛③ Struge ストルゲー愛④ Eros エロス愛の四つに分けられます。アガペー愛は神が人間を愛される愛で、親が子を慈しむ愛に最も近い愛です。フィレオー愛は友情愛、ストルゲー愛は愛国心。そしてエロス愛が男女が求め合う愛となります。最終的に到達すべき愛はアガペー愛です。神は人間一人ひとりをこよなくいつくしみ、かけがえのない個人として守り育んで下さいます。神が人間に実践して欲しいと思っておられることは、次のパウロという使徒のことばに要約されます。以下、引用します。「全財産を人のために使い尽くそうとも、愛がなければ何の益もない。愛は忍耐強い。愛は情け深い。妬まない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真理を喜ぶ。すべてを忍び、信じ、望み、すべてを耐える。」第1コリント13:3～7。

今、私たちができることから実践しましょう。　　前理事長　池田公榮

９月の行事予定

1 日（木）	二学期始園日（1 号午前保育）
10 日（木）	誕生会（8･9 月生まれ）
17 日（土）	おすもう大会・弁当の日
30 日（金）	運動会予行・弁当の日

１０月の行事予定

7 日（金）	就学時健診
8 日（土）	第 59 回大運動会
9 日（日）	市民体育祭
10 日（月）	運動会予備日
11 日（火）	振替休日（1 号）
19 日（水）	秋の遠足
25 日（火）	おにぎりパーティー

利用料見直しのお知らせ

現在の利用料額は，H26.1~12 期の所得額によって算定されております。H27.1~12 期の市民税額における階層の変動に伴い，市による利用料の見直しが行われます。９月分より保育料が変更になる世帯もあります。**該当される方には**，変更通知書を配布致しますのでご確認下さい。

なお，利用料についての質問等は**市福祉事務所・子育て支援係**へお願いします。

カルチャーショック・イン・種子島

「きりすとこども園のお友だち、おはようございます！」毎朝9時20分、、園庭にスピーカーを通して朝の挨拶が響き、続いてお片付けと体操の音楽がこれまた元気よく流れます。ここ種子島では当たり前の毎日の日課。しかし、これが私にとってのまず初めのカルチャーショックでした。

種子島に来る前は千葉と東京、大阪の保育園にいました。今思えば、どこも都会であったのだと思います。子どもの声で苦情が来るからと窓を開けることも出来ない園もありました。それが種子島へ来て、きりすとこども園に来た途端、いきなりスピーカーです。その声は園庭に留まらず近隣にまる聞こえ、かなり響いています。

「ここれ大丈夫？」と密かに思ったものです。でも、これがここの”普通”なのだと気づいたとき、なんて恵まれた環境なんだろうと思いました。お散歩では、近くの浜辺へいき貝殻を拾い、草木の生い茂る公園へ行ってはまつぼっくりを拾い、夏にはお家の人達と捕まえたというカブトムシを嬉しそうに持ってくる。まさしく不自然ではなく、自然な環境。泣き声、笑い声が自由に飛び交える環境。そこに寄り添う優しさと慈しみに溢れる先生たち。この園が創り出している雰囲気と恵まれた環境に感謝しています。

と同時に、カルチャーショックは他にもまだまだ続いている新人保育教諭です。

ひかり組担当　坂田郁子

諦めない心を育てよう！　二学期

珍しく台風接近の少ない八月でしたが、降雨の少ない酷暑がいまだ続いています。皆様、如何お過ごしでしたでしょうか。お忙しい中にあっても、お盆休み等は、はそれぞれにご家族で楽しい時間を満喫されたかと思います。

今年の夏は何といってもリオ･オリンピックでしたね。水泳、体操、レスリング、柔道、バトミントンの金メダルを始め、史上最多四十一個のメダル奪取となりました。中でも私が印象に残ったのは、女子レスリングでした。残り数秒の逆転勝利の瞬間を三回も味わうことができ幸せでした。万事休すの状況でも、最後の瞬間まで諦めず最善を尽くす姿に素直に感動しました。と同時に、ほぼ九割九分手中にしていた勝利が、一瞬にして指の間からこぼれ落ちる切なさも味わうことでした。一口に、最後まで諦めないと言っても容易ではありません。しかし、これが自分のためだけではなく、他の誰かのためだったらどうでしょう。パラリンピックのクロスカントリー競技で活躍した新田佳浩選手を思い出します。彼は3歳の時に、祖父が運転するコンバインに左手を巻き込まれ肘から先を失いました。4歳からスキーを始め、その後クロスカントリー競技で頭角を現し、二度目のソルトレイクパラリンピックでは銅メダルを獲得しました。次のトリノ大会では金メダルが確実視されていましたが、思わぬところで転倒してしまい、大敗を喫してしまうのです。帰国後、敗戦の結果に引きずられ、引きこもりがちになっていた彼を再び奮い立たせたものは、祖父への思いでした。かわいい孫が腕を失った事故直後、「この子と一緒にわしは死ぬ」と自分を責めていたおじいちゃん。その祖父の姿を見て、見失っていた目標に気づいたそうです。「目標は金メダル、目的はおじいちゃんのために」を胸に、4度目のパラリンピック、バンクーバー大会に臨み、見事二個の金メダルを獲得しました。九二歳になったおじいちゃんの首に金メダルを掛けてあげていた姿をよく覚えています。「誰かのために」という目的があれば、人は簡単には諦めないことを教えられました。人生の旅路は悲喜こもごもです。順境より逆境の時こそ人としての真価が問われます。幼児期に出会う様々な経験こそ困難を乗り越える力となるはずです。「子どもたちよ。子ども時代をしっかり楽しんで下さい。大人になってから、老人になってから、あなたを支えてくれるのは子ども時代の『あなた』です。」という石井桃子さんの言葉を噛みしめたいと思います。まだまだ残暑が厳しい毎日ですが、そろそろ夏の疲れも出てくる頃です。早寝・早起き・朝ごはん・朝ウンチで、親子共々元気でいきましょう。保護者の方々には夏祭り・おやぢ保育と、多くのご協力をありがとうございました。二学期も引き続きご協力をお願い致します。

学園長

子どもとのよい関係を作るために

コミュニケーションのポイント　－「新しい時代に対応した子育て支援」津村薫著より－

①子どもたちが「自信」を身につけることが出来るように意識する。
②子どもたちとのスキンシップを大切にする。
③肯定的な言葉がけをする。
④よく話を聴いてあげる。
（例えば・・・・）
子どもの気持ちをよく聴くことは大切ですが、大人にゆとりがないと、聴いているようで聴いていない、そんなコミュニケーションをとってしまうことがあります。
「どうしてお友だちをたたいたの？」
「だって、〇〇ちゃんが先にたたいたもん」
「たたかれても、お友だちをたたいたらだめでしょ!」
・・・こんなやりとりになっていませんか。
まずは、「〇〇ちゃんにたたかれて、悔しかったのね。」と共感を寄せましょう。
「でも、悔しくてもお友だちをたたいたらダメだよね。どうすればよかったかな？」と**作戦会議を立てるように**
・「やめてとお口で言う」
・「先生に言う」
・「逃げる」
などの選択肢を思いつけるように手助けしてみましょう。
⑤子どもの気持ちを受け止め言葉にしましょう。
「くやしかったね」「悲しかったね」「イヤな気持ちだったね」「ビックリしちゃったよね」などと言葉にして、子どもの気持ちを受け止めましょう。
⑥失敗を活かすことを手助けしてあげましょう。
子どもは大人の言うことを聞かずに失敗した時、「それみたことか」という叱られ方をされがちです。でも、人が生きていくことは小さな失敗を繰り返すことです。大人は子どもが失敗を上手に活かして、そこから立ち直ることを手助けしてあげたいものです。
「〇〇君、こうしたらうまくいかなかったね。今度はどうしたらいいと思う？」と子どもがあれこれ考えられるチャンスをあげ、一生懸命アイディアを出せたら、それがどんなに未熟なものでも「頑張って考えて偉いね!」とほめながら、**作戦会議を立てて**てあげましょう。

転ばぬ先の杖を準備するのではなく、子ども自身の小さなつまずきを保障し、これから学んで次に生かせるように応援してあげましょう。

※少しの意識で、作戦会議を立てるように、子育てにも余裕が生まれてくるのではないでしょうか。　園長